

ショックアブソーバの元祖である MONROEの100年

1916-2016

ショックアブソーバのメーカーであるモンローが今年で100年を迎える。ここではその長い歴史を振り返りながら、モンローショックがどのようにして発展してきたのかを解説していきたい。



テネコジャパン株式会社

TEL.045-285-5221
http://www.monroejp.com/ **TENNECO**

日本では、1973年にモンロージャパン株式会社として設立。1987年にテネコオートモーティブジャパン株式会社へと社名を変更。2010年に現在のテネコジャパン株式会社へと社名変更されている。本社は神奈川県横浜市に位置する。



研究施設内では厳しいテストをクリアすることによって、耐久性と信頼性に優れたショックアブソーバを生み出している。スラロームやブレーキテストなど実車を使ったテストも実施され、安全かつ快適な乗り味を実現するためのデータを収集。100年という長い歴史の中で培ったノウハウは、現在のショックアブソーバにも受け継がれている。

タイヤポンプの製造からスタートしたモンロー
いまやグローバルな展開を見せるモンロー。ショックアブソーバのブランドとして世界に知られた存在であることは言うまでもないだろう。そんなモンローだが、今年で100周年を迎える。100年という長い歴史の中でどのように歩んできたのか。詳しくは次ページにまとめた表を見てほしいが、ここではポイントとなる部分を解説していきたい。

1926年には世界初となるショックアブソーバを開発。伸び側縮み側ともに動くダブルアクション式はその3年後に実用化している。これは現在のショックの原型とも言えるものだ。今では、当たり前のように装着されているショックアブソーバだが、モンローはその元祖だったのである。

1951年、モンローはアメリカの自動車メーカーにショックを納入するようになる。アメリカ最大のレースイベントであるインディ500にもサプライヤーとして参戦し、モンローを装着したマシンが5年連続で優勝。その後23年間で22回の優勝という快挙を成し遂げたのだ。そしてその高い技術力は、アメリカでも広く認知されるようになる。

1926年には世界初となるショックアブソーバを開発。伸び側縮み側ともに動くダブルアクション式はその3年後に実用化している。これは現在のショックの原型とも言えるものだ。今では、当たり前のように装着されているショックアブソーバだが、モンローはその元祖だったのである。

モンロー100年のあゆみ

今年で創立100周年となるモンロー。そのあゆみを簡単に振り返ってみよう。

1916年 タイヤポンプのメーカーとしてスタート

オーガストF.マイヤーがミネソタ州モンローに現在の前身となるプリストプラスト社を設立。タイヤポンプを週に5,000個以上製造する主要メーカーとなる。



1938年 世界初となる 鉄道客車用のショックを導入

この頃になると自動車以外にもビジネスを広げていく。そして1938年に世界初となる鉄道客車用のショックアブソーバを導入される。



1964年 ベルギーに 拠点を設置する

モンローはベルギーに開発・製造拠点を設置。これ以後、グローバルに拠点を拡大していく。



1973年 モンロージャパン 設立

日本に100%資本の子会社としてモンロージャパン(株)を創設。ショックの販売を開始する。

1977年 テネコ社の 自動車部門となる

モンローはテネコ社の自動車部門となる。多国籍展開が可能となり、アメリカのビッグ3やヨーロッパの一流メーカーにショックが採用され飛躍的に業績を伸ばす。

1980年 世界初の ストラットを 開発

世界初のストラットの開発/製造を開始(フォードトラス用)。その後、ガス入りショックアブソーバの製造も行なう。

1989年 サスペンション メーカーを買収

イギリスのサスペンションメーカー「アームストロング」社を買収

1990年 買収によって 事業を拡大

4WDオフロード車用No.1サスペンションブランド「ランチョイダストリー」社を買収。さらに、オーストラリアの最先端技術を生み出す「キネティック」社を買収し、事業を拡大していく。

2000年代 拠点をさらに 拡大していく

ヨーロッパ、アジアなどに次々と拠点を開設。

2016年 創立100周年を迎える

1919年 オイル式の タイヤポンプが 完成

モンローオートイクイップメントマニュファクチャリングカンパニーに社名変更。同社初となるセルフオイル式シングルタンクのタイヤポンプを完成させる。



1926年 世界初のショック アブソーバ

世界初となるモンローショック、エリミネーター(衝撃除去器)を開発する。



1929年 伸び縮み側が あるショックの原型

現在のようなダブルアクション式のショックアブソーバを開発する。ダブルアクションとは伸び側、縮み側ともに動くもので、現在のショックアブソーバの原型と言える。



1933年 自動車メーカーに 純正採用される

モンローのショックアブソーバが自動車メーカーにも注目されるようになり、純正品として採用される。

1935年 スタビライザーを 開発する

ショックアブソーバ以外のビジネスとして、スタビライザーを開発する。その後30年以上販売。

1941年 戦時中には 軍隊向けの 製品を納入

戦時中になると、戦車の椅子や油圧弁などのショックアブソーバを納入するようになる。



1951年 アメリカの 自動車メーカーに 広く採用される

モンローマチックは世界で広く認知されるようになり、アメリカの自動車メーカーを中心に広く採用されるようになる。



1953年 インディ500で モンロー装着車が優勝

アメリカの最大レーシングイベントである「インディ500」で、モンロー装着車が5年連続で優勝。それ以後の23年間で22回の優勝を成し遂げる。



1956年 広告キャンペーンを 開始する

業界では初となるグローバルな広告キャンペーンを実施する。ショックアブソーバの交換を啓蒙。

1957年 ショックの ラインナップを充実させる

特殊機構を持つ製品やパフォーマンス重視の製品など、様々な分野のショックアブソーバの販売する。



現在、ドイツ車ではメルセデス・ベンツ、フォルクスワーゲン、アウディなどの純正品として採用されていることから、自動車メーカーが定める厳格な基準をクリアできる高い技術力をうかがうことができる。例えばメルセデス・ベンツCクラスに採用されている純正の電子制御式ダンパーは、モンローが供給しているものだ。

